

楠隼ウォーキング～楠隼生徒、19 kmに挑む～

十一月一日に、楠隼ウォーキングが行われました。楠隼ウォーキングとは、中学生を対象に楠隼創立三年目から、毎年十一月に行われていた行事の一つです。目的地に向かつて決められているルートをたどりながら往復し、再び寮に帰ってくることで基礎体力を増進するために行われます。この行事は、楠隼生と職員だけではなく、地域の方々や保護者の方々にも協力してもらい成り立っている行事でもあります。

今年には楠隼をスタートし、「吾平上山楼」と呼ばれる初代天皇のご両親が弔われていた神聖な場所を往復して楠隼寮へ帰ってきます。行き道のりは九・六キロ、帰りは九・四キロもの道のりを歩きます。

この時期は年間を通して行事があまり少ない月でもあり、初めて行く一年生や二回目である二年生、今年で最後となる三年生もそれぞれの思いが詰まった行事になります。

目的地までの走るスピードには多くの人が二つのタイプを選びます。一つ目は、楠隼「ウォーキング」の名前の通り大隅半島の特色や自然、日頃足を運ばないような田んぼ道などを歩いて自然を味わいながら歩くタイプです。もう一つは完歩した人に贈られる完歩証に記入されるタイムを短くするため十九キロの道のりを走ってゴールするタイプです。

事前学習では、持ち物の確認、ルールなどについて、先生方から説明を受けました。特に一年生は胸を躍らせて待っていたのではないのでしょうか。

早朝九時に「パーソン」という校長先生のピストルの音を合図に、一斉に皆が走り出しました。走る人も歩く人も序盤は、ペースを上げて校門を抜けていきました。また列に先生方が付いておられるので話を盛って盛り上がる生徒も見られました。

楠隼から出発し、コスモス高山店の方面に歩いていく途中には、田んぼやお店、住宅などが多く見られ、上りと下りを何度も繰り返すような道を歩くため、歩いている人でも息を切らしている様子でした。

昼になると気温が高くなり、水分補給や休憩をこまめに取って、生徒が自分たちで体調管理を行っている場面も見受けられました。

吾平山楼までの九・六キロメートルを一時間三十分以内に着いた人のみ弁当を学校で食べることが許可されたことや、お風呂が早くから開放され汗を流すことができることなどの様々な理由で全体的に完歩するまでの時間を短くすることに繋がりました。

今回の行事では、十九キロ歩くことを通して、体力や忍耐力を身に付けること、一緒に歩いた仲間との助け合いによって協調性や

今年を振り返り 反省を来年に生かそう

共に努力する姿勢などを身に付けることが十分にできたと思います。多くの生徒は、同級生と共に走ったり歩いたり、団体で助け合いの大切さを体感した人も多くいたのではないのでしょうか。

そして今回の行事で生徒の安全を見守ることや、生徒への熱い応援を通して励ましていただいた保護者や地域の方々、先生方に感謝の気持ちについてももう一度考え直し、伝えてみてはどうでしょうか。

〈白川〉



〈右〉吾平山楼までの道のりを歩く生徒の様子。



〈右〉吾平山楼で昼食を取る生徒の様子。

中学技術部 九州大会出場決定

十月二十六日、鹿児島市立玉籠中学校にて「第十九回創造アイデアロボットコンテスト鹿児島県中学生大会」が行われました。毎年出場している楠隼の中学技術部は今年、基礎部門・活用部門・応用部門の三部門において、九州大会への出場を決めました。

基礎部門においては中学一年生の「おうどん食べた」が準優勝を収めました。競技は「エネルギー交換に関する学習」の導入題材として、駆動部に、二つのモーターを使用し、最も基本的なモーターカーで、最も位置に運んだり、相手コートにボールを押し出したりして自分のコートのボールの少なさを競うものです。チームは中尾遙稀さん、田中伸明さん、増山慶胡さん、有里大志さんの四人で協力して作ったそうです。試合では、アンスタントの役割を担う生徒としっかり協力して、思うような結果が出せたと話していました。

応用部門は「全力の復興ロボット」、活用部門では「テン」が推薦で九州大会の出場権を獲得することができました。活用部門とは、穴あき発砲ブロック（100×100×100）を、コートの中央にある十か所のゴールに設置（棒に差す作業）をその競技で試合前にチームの揺れを直したり重心を低くしたりして態勢を整えていました。各部門の意気込みを聞いてみると「良い成績を残す」「県大会以上の結果を出す」などの勢いのある言葉で返してくれました。応用部門は「思っていた以上に県大会のレベルが高くて負けてしまったけれど、九州大会への出場が決まったので全力で戦いたいと思います。」と話していました。九州大会では、十五点を取るというと高記録を出すことを宣言してくれました。

「第二十一回創造アイデアロボットコンテスト九州大会」は、佐賀県の鳥

仰げば尊し〜永田先生〜

▼「何も咲かない冬の日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く。」▼この言葉は、二〇〇〇年のシドニーオリンピック女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんの座右の銘として有名な言葉だ。▼何をしてもうまくいかない。そんなときは、今は花が咲く時期ではないのだと気持ちを切り替えて、コツコツと努力を重ねることが大切だ。努力を続けていけば、やがて大きな花を咲かせることにつながるという意味である。▼高橋選手は、この言葉を練習の支えとして、記録が伸びない時も、この言葉を自分に言い聞かせて頑張ったそうだ。▼この言葉は、元々は「何も咲かない冬の日は、下へ下へと根を伸ばせ」という言葉で、将来のためではなく、今、この時の自分を最高に生き切る、という意味があるそうだ。▼目標を持ち、いつかは報われると信じて、今を頑張ることは素晴らしいこと、とても大切なことである。しかし、先のことばかりに気を取られ、今やるべきことや大切にしなければならぬことに、目を向けていないだろうか。▼本当に大切なことは、やがて来る春や夏のために、冬には冬しかできないことに全力を尽くし、いつかのためではなく今を生き切ることの積み重ねだと思おう。▼きっと高橋選手も毎日、苦しい練習を続けることと自体に、やり甲斐を見つけて走り続け、その結果として金メダルを手にしたのではないのか。

▼君たちは、楠隼での日々の生活に、今どのような気持ちで取り組んでいるだろうか。中学校の時間は、今しかない。今やるべきことを真剣に受け止め、取り組んでいるだろうか。▼入学前、大きな目標をもって入学してきた君たちへ伝えたい。▼「来るべき日のために、今しかできないことに全力で取り組むその道のりを大切にしよう。▼結びに、宗園和尚の言葉を紹介したい。▼「わたたくし自身の将来は、いまこの瞬間に頑張る。いまここで頑張らずにいつ頑張るいまこそ出発点。」

栖市民会館で十二月十四日から二日間の日程で行われるそうです。中学技術部が良い成績を残せるよう楠隼一丸となって応援していきましょう。

〈梅木〉



〈右〉県大会で活躍した活用部門「テン」



〈上〉試合に向け、練習に励む基礎部門の様子。